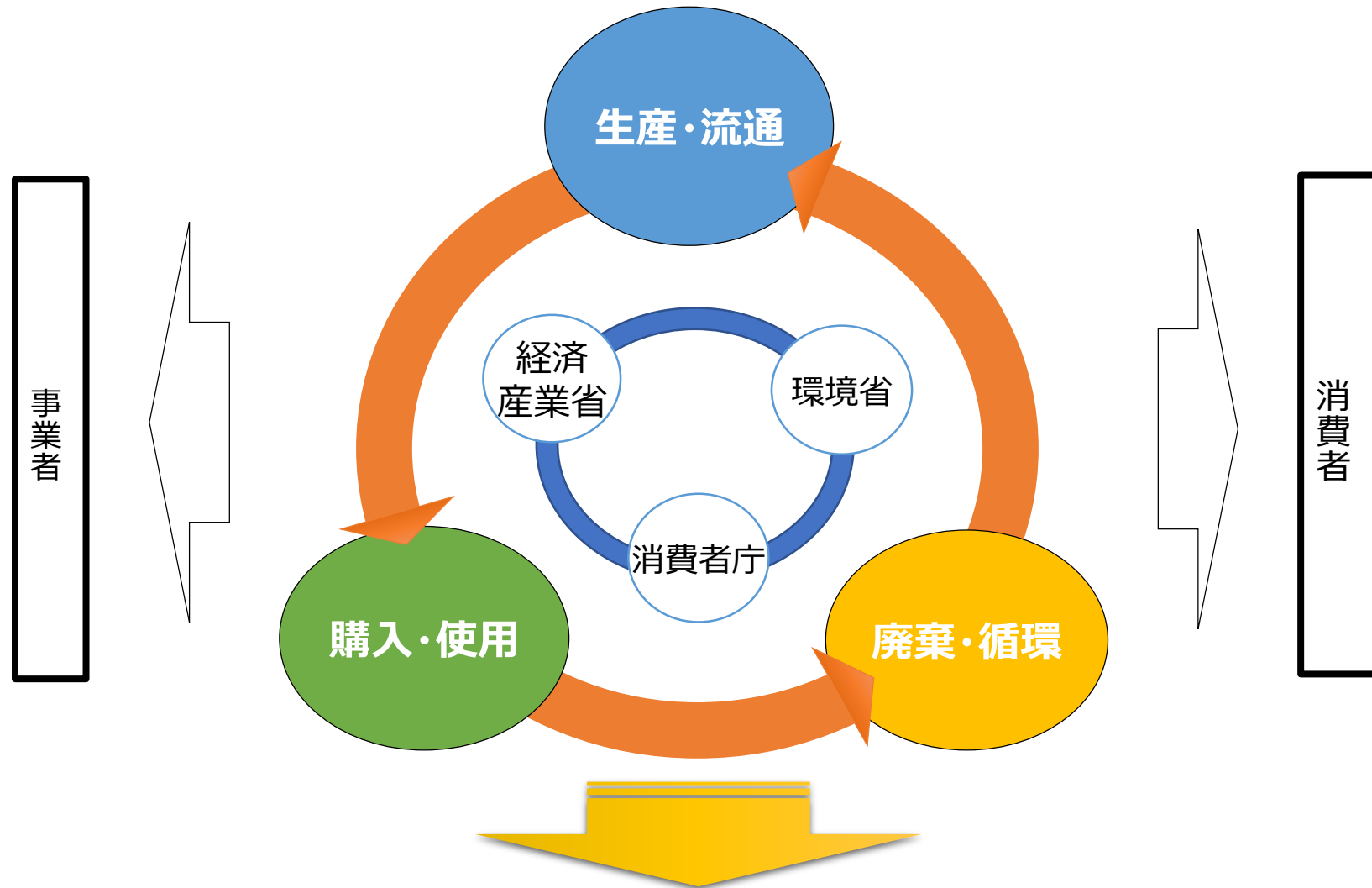


第 3 回サステナブルファッションの推進に向けた 関係省庁連携会議

消費者庁説明資料

1. サステナブルファッションの推進体制

消費者庁、経済産業省、環境省の3省庁が連携し、生産・流通から廃棄・循環までの各段階に応じて、事業者及び消費者の双方に向けた取組を計画的に進めるとともに、制度面を含めた課題の整理・検討を行っていく。



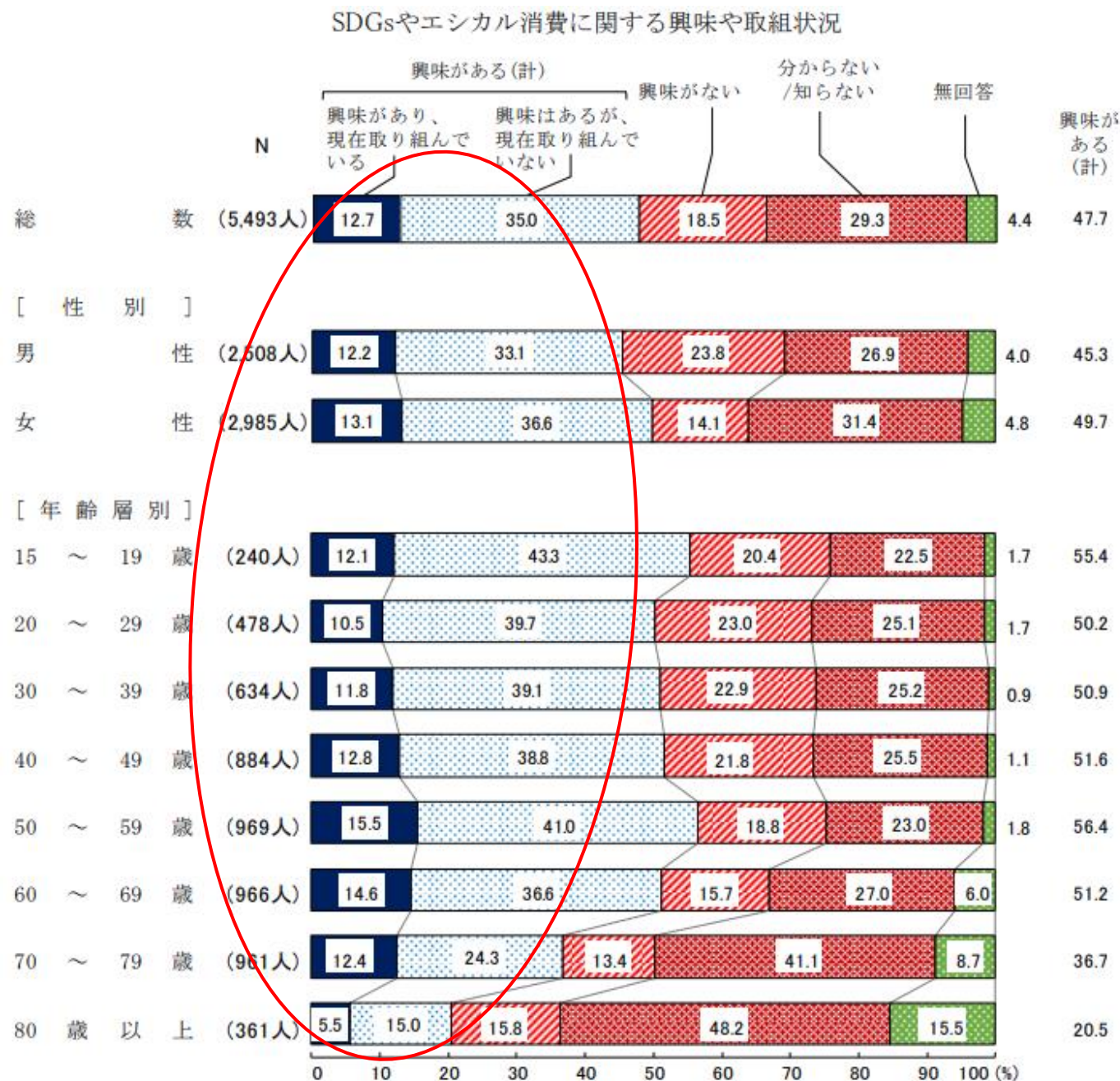
事業者の取組の推進(環境配慮設計の推進・透明性の向上等)、消費者の行動変容等の実現
ファッションロスの削減

2. サステナブルファッションの現状（1）

SDGs・エシカル消費に興味はあるが、まだ取り組んでいない

令和3年11月に実施した「消費者意識基本調査」でSDGsやエシカル消費に関する興味や取組状況を聞いたところ、「興味があり、現在取り組んでいる」「興味はあるが、現在取り組んでいない」と回答した割合は47.7%だった。

比較的若い世代で、「興味はあるが、現在取り組んでいない」割合が多くなっている。



出典：令和3年消費者意識基本調査

2. サステナブルファッションの現状（2）

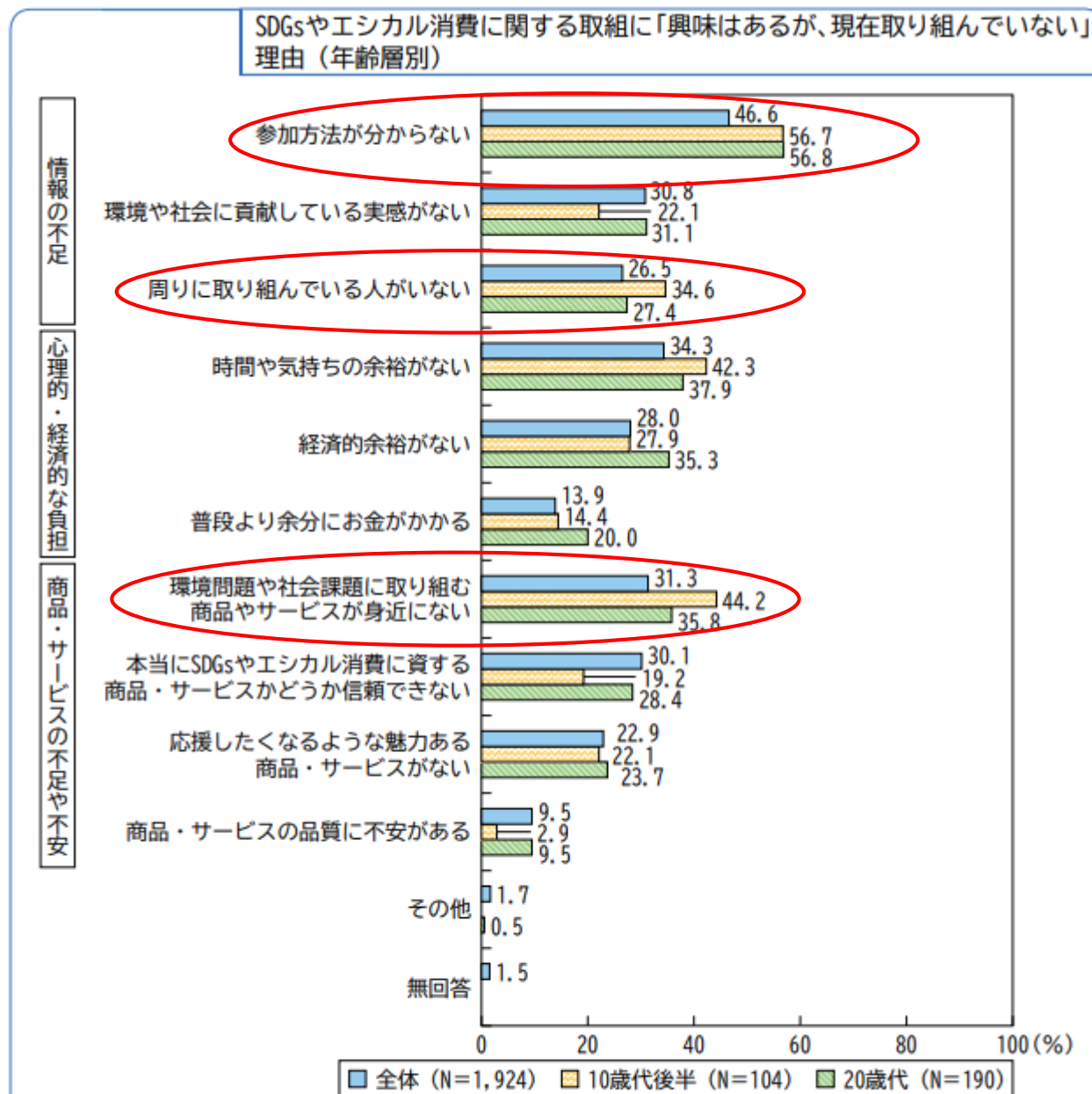
SDGs・エシカル消費に興味はあるが、まだ取り組めていない若者にとって、「参加方法がわからない」ことが取り組めていない一番の理由に

「興味はあるが、現在取り組んでいない」人が取り組んでいない理由として、「参加方法がわからない」が10歳代後半では56.7%、20歳代で56.8%と最も高く、全体の46.6%よりも高くなっている。

「環境問題や社会問題に取り組む商品やサービスが身近にない」割合も同様に、10歳代後半で44.2%、20歳代で35.8%と全体の31.3%よりも高かった。

また、20歳代では「周りに取り組んでいる人がいない」割合も34.6%と全体の26.5%に比べて高い結果となった。

このことから、若者はSDGsやエシカル消費に興味はあるが、参加方法がわからない、周りに取り組んでいる人がいない、身近に製品やサービスがないと感じているため、取り組めていない人が多いことがわかる。



(備考) 1. 消費者庁「消費者意識基本調査」(2021年度)により作成。
 2. 「あなたのSDGsやエシカル消費に関する取組について、当てはまるものを1つお選びください。」との問に対し、「興味はあるが、現在取り組んでいない」と回答した人への、「興味はあるが、現在取り組んでいない」理由として、当てはまるものを全てお選びください。」との問に対する回答を項目別にした上で、回答数が全体の多い順に表示(複数回答)。

2. サステナブルファッションの現状（3）

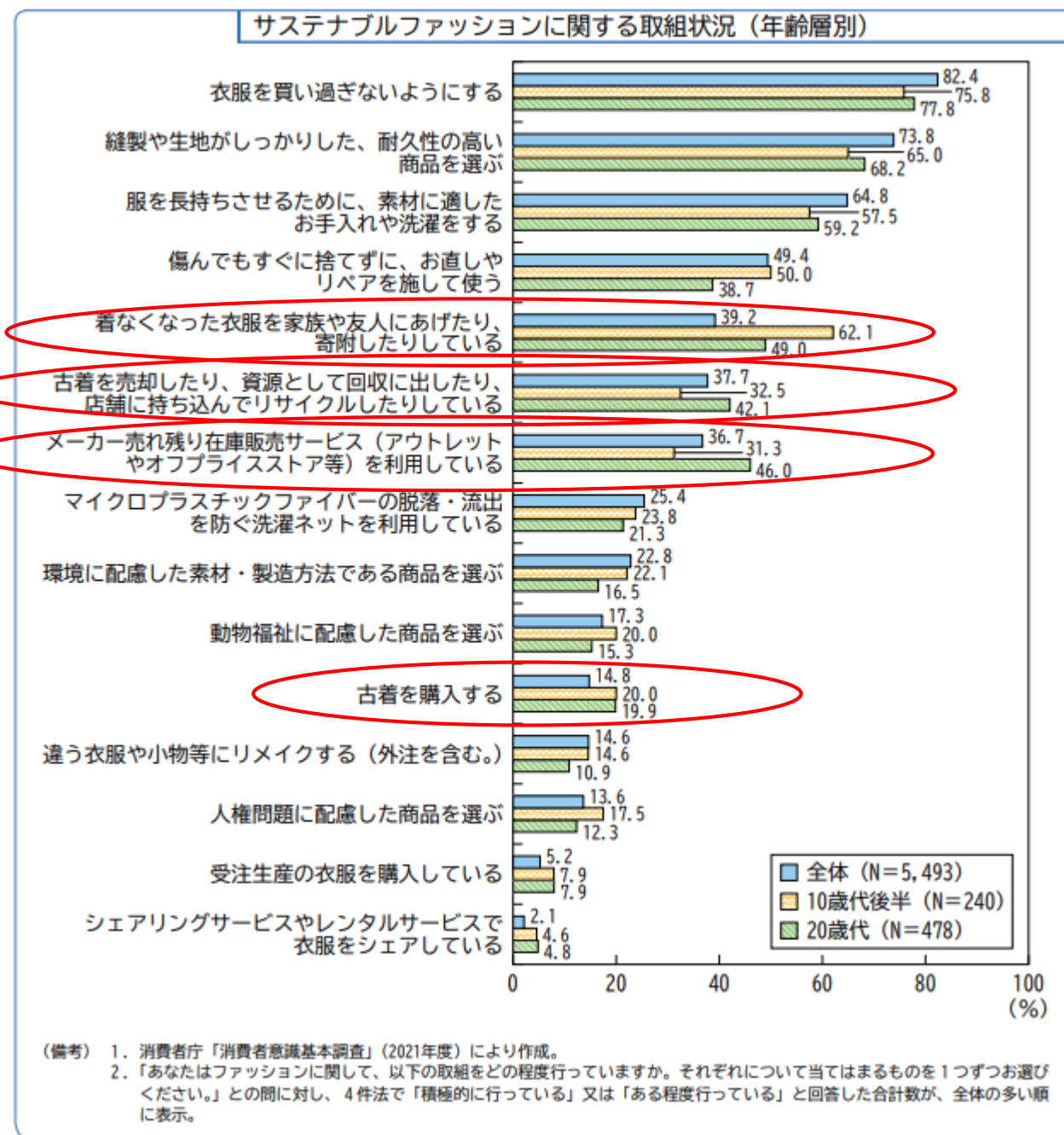
若者は、サステナブルファッションに関する取組の中では、古着の活用や衣服のリサイクルを実施

サステナブルファッションに関して取り組んでいることは、全体では「衣服を買い過ぎないようにする」が82.4%と最も高く、次いで「縫製や生地がしっかりした、耐久性の高い商品を選ぶ」73.8%の順となった。

また、10歳代後半では、全体とは異なり、「着なくなった衣服を家族や友人にあげたり、寄付したりしている」割合が62.1%と、「服を長持ちさせるために、素材に適したお手入れや洗濯をする」割合の57.5%を上回っている。「着なくなった衣服を家族や友人にあげたり、寄付したりしている」割合は20歳代でも49.0%と全体の39.2%と比べて高い。

「古着を購入する」割合も、10歳代後半で20.0%、20歳代で19.9%と全体の14.8%よりも高くなっている。

そのほか、「古着を売却したり、資源として回収に出したり、店舗に持ち込んでリサイクルしたりしている」割合が全体で37.7%だが20歳代では42.1%、「メーカー売れ残り在庫販売サービス（アウトレットやオフプライスストア等）を利用している」割合が全体で36.7%だが20歳代では46.0%と、高い割合となった。



3. 消費者庁の取組

<継続取組>

- ① 「サステナブルファッション習慣のすすめ」特設ページの開設
- ② サステナブルファッション地域実証事業の実施
- ③ 「わたしのサステナブルファッション宣言」リレーの実施
- ④ サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議の開催
- ⑤ ジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）への参画

<新たな取組>

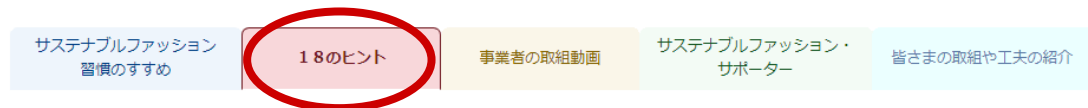
- ⑥ 啓発動画の作成
- ⑦ インフルエンサーを活用した情報発信

3. 消費者庁の取組（1）

①「サステナブルファッション習慣のすすめ」特設ページの開設（令和3年8月）

- サステナブルファッションが求められる背景やサステナブルファッションの取組の動向を伝え、消費者に具体的行動を呼びかけ
- 消費者意識・行動の変容が事業者の取組とともに不可欠であることから、サステナブルファッションに初めて取り組む消費者を含め消費者向けに、分かりやすく具体的な行動のヒント集を有識者からのヒアリングを踏まえて取りまとめて公表
- ヒントの具体例として46事業者の取組事例を紹介（令和3年12月事業者URLリンク掲載）
- 6事業者の取組内容を動画にて紹介（令和4年1月掲載）

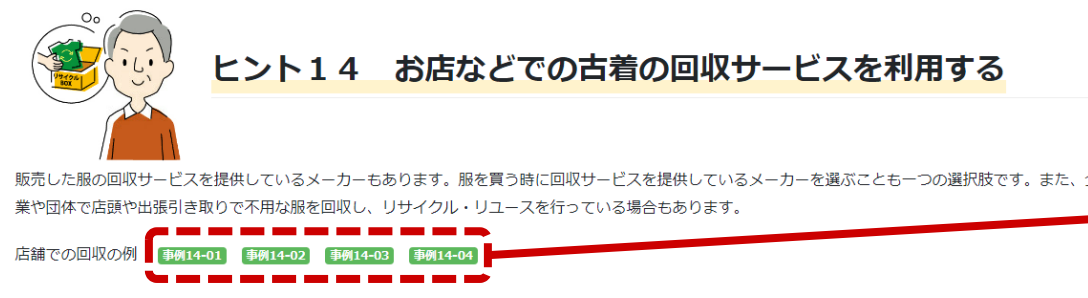
消費者行動18のヒントのとりまとめ・公表



「サステナブルファッション」に向けた消費者行動18のヒント
～服を買う時から始まるサステナブルファッション習慣のすすめ～



●消費者が実際の行動に移しやすくする仕掛けとして、ヒントに関連する事業者等の具体的取組事例のリンクを設定



18のヒント

●具体的な行動のヒントを伝えることで、行動する人の輪を広げる



事業者の取組動画

●事業者においても、サステナブルファッションの推進に向けた取組が進められており、その一例を紹介

サステナブルファッション
習慣のすすめ

18のヒント

事業者の取組動画

サステナブルファッション・
サポーター

皆さまの取組や工夫の紹介

ページ閲覧数

期間: 令和3年8月(開設)～
令和4年10月5日

33,259ビュー



2022.01.31 NEW

株式会社ウィファブリック 「SMASELL (スマセル)」

ファッションを楽しみながら地球を守る、持続可能性に向き合うサステナブルアウトレットモール。最後の一点まで商品を届けたい企業と、お得に商品を購入したい購入者を繋げることで新しい販売機会を生み出し、「廃棄のない循環型社会」を目指している。



2022.01.31 NEW

株式会社京都紋付 「KUROZOME REWEAR FROM KYOTO」

「黒に染めれば、服は生まれ変わる。」よりサステナブルな社会のために。お気に入りの一着をずっと大切にするために。「黒染」によるリウエアという選択肢を届ける。



2022.01.31 NEW

大丸松坂屋百貨店「AnotherADdress」

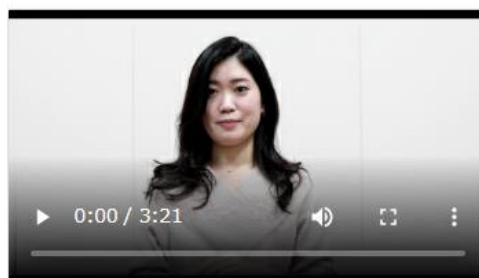
服は使い捨てではないという信念のもと、ファッションの本質的な価値、サステナブルな取り組みを重視し、社会や環境にとって持続性の高いビジネスモデルへ転換することを目指す。



2022.01.31 NEW

高島屋百貨店「Depart de Loop」

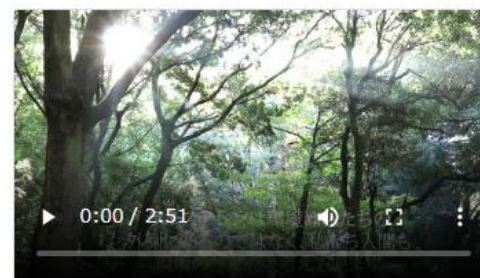
サステナブルな循環型社会の実現を目指す高島屋のプロジェクト。
再生繊維(再生ポリエステル)を使った服を販売し、着なくなった後に回収。
その服を繊維原料に再資源化して、何度でも新しい服に生まれ変わらせる。



2022.01.31 NEW

豊島株式会社 「ORGABITS」

オーガニックコットンを通して、みんなで "ちょっと"ずつ地球環境と社会に貢献しようという想いから2005年に始まったプロジェクト。"ちょっと良いこと"をかたちにしていく。



2022.01.31 NEW

LAERSTERENN 「パイナップルの葉からできたレザー風素材」

「人や動物に思いやりのあるものづくり」をコンセプトに アニマルフリーで環境に配慮した素材を用い、シンプルな機能とデザインで制作。
パイナップルの葉からできたレザー風素材、Pinatex (ピニャテックス) を使用した製品を取り扱う。

3. 消費者庁の取組（2）

②サステナブルファッション地域実証事業の実施

- 徳島県にて、自治体、事業者、消費者が協働するサステナブルファッションの紹介シンポジウムやサステナブルファッションショー等のイベントを開催

＜イベント開催（オンライン配信）＞

- ・ 令和3年7月12日 ファッションから考えるサステナブルな未来
 - ・ 令和3年12月9日 ファッションから考えるサステナブルな未来
～わたしたちができること～
 - ・ 令和4年3月10日 サステナブルファッションに関する日仏シンポジウム
～フランスの取組から学ぶ～
- 愛知県にて、地場産業の未利用素材を活用したサステナブル商品の開発実証を実施
- ＜先進的モデル事業実施（地域協力課モデル事業：愛知）＞
- ・ 「衣類」をテーマに、地域で先進的な取組を行なっているリデザインプロジェクト、フェアトレード名古屋ネットワークを核に「中部エシカリングプロジェクト」を発足
 - ・ 生産者、販売者、消費者の間にある分断を、理解で繋ぐ仕組みづくりと、AIやオンラインの先進技術を活用し広く発信し、伝え、行動に導くことでエシカルの推進を図る

イベント開催（オンライン配信）

令和3年7月開催

※環境省、四国大学と共催

● 基調講演

「サステナブルファッションとは？－服と自然と社会のつながり－」

● パネルディスカッション

「サステナブルファッションと消費者の選択」

● 学生を交えたディスカッション

「ロスから考えるサステナブルファッション」

令和3年12月開催

※後援：経済産業省、環境省、徳島県

● トークショー

「わたしたちができるサステナブルファッション」

● サステナブルファッションショー

出演・演出 大阪モード学園

令和4年3月開催

※後援：経済産業省、環境省、在日フランス大使館

テーマ

「サステナブルファッションの国際的潮流と今後の展開」

● 基調講演

● ラウンドテーブル(意見交換)

ファッションから考える サステナブルな未来

日時 2021年 **7/12 月** **13:00～15:30**

開催方法 オンライン配信 (申込不要)

視聴URL : <https://www.youtube.com/watch?v=kj-ytXPRbIo>
※イベント終了後も一定期間ご視聴いただけます

プログラム

- **開会挨拶** ミツ林 裕巳 (内閣府副大臣)
※公開の都合により、変更の可能性が御座ります
松重 和典 (四国大学学長)
- **鎌田安里紗氏 基調講演 13:10～**
「サステナブルファッションとは？－服と自然と社会のつながり－」
- **パネルディスカッション 13:50～**
「サステナブルファッションと消費者の選択」
モデレータ：松重 和典 (四国大学学長)
パネリスト：
池内 計司 (IKEUCHI ORGANIC(株)代表取締役)
大塚 桃奈 (上勝町ゼロ・ウェストセンターCEO)
日下部 美紀 (消費者庁新未来創造戦略本部次長)
森向 貴子 (徳島県中国四国地方環境事務所長)
- **学生を交えたディスカッション 14:40～**
「ロスから考えるサステナブルファッション」
司会：加藤 いづみ (四国大学短期大学部教授)
コメンテータ：鎌田 安里紗
参加者：
四国大学学生2名
大塚 桃奈 (上勝町ゼロ・ウェストセンターCEO)
- **閉会挨拶**
森向 貴子 (徳島県中国四国地方環境事務所長)

プロフィール

徳島県出身。衣服の生産から廃棄の過程で、自然環境や社会への影響を懸念する「サステナブルファッション」に関する情報発信を積極的に行い、ファッションブランドとのコラボレーションでの製品企画、衣服の生産地を訪ねるスタディ・ツアーの企画などを行っている。暮らしのちよと実証室 Little Life Lab を主宰。一般社団法人unisteps共同代表。環境省森里川海プロジェクトアンバサダー。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程在籍。

主催：消費者庁新未来創造戦略本部・環境省中国四国地方環境事務所・四国事務所・四国大学
後援：ローカルSDGs四国
協力：四国環境パートナーシップオフィス、四国地方ESD活動支援センター

■お問い合わせ先：消費者庁新未来創造戦略本部（電話）088-600-0000 担当：溝本、松岡





ファッションから考える サステナブルな未来 ～わたしたちができること～

日時 **12月9日(木)** **14:00～17:00**

開催方法 オンライン配信 (申込不要)
https://www.caa.go.jp/policies/future/topics/meeting_006/
※ 当日消費者庁ウェブサイトから御視聴ください。イベント終了後も一定期間ご視聴いただけます。

イベント概要

普段、身につけている衣服について、持続可能な社会の実現にむけ、何が出来るか一緒に考えてみませんか？

14:45～

- **トークショー**
「わたしたちができるサステナブルファッション」
<コーディネーター> 一般社団法人unisteps共同代表 鎌田 安里紗
<ゲスト> 株式会社unisteps 代表/コミュニケーション担当 上村 一斗
デパートカンパニー 代表/アクティビスト eri
上勝町ゼロ・ウェストセンター CEO 大塚 桃奈
株式会社Shoichi 代表取締役 CEO 山本 昌一

16:30～

- **サステナブルファッションショー**
エシカル消費特設サイト「サステナブルファッション習慣のすすめ」の「18のヒント」を参考に、サステナブルファッションの具体的なコーディネートをご紹介します。コーディネート、背景、サステナブルな観点を中心に、学生へのインタビューを通じて深く掘り下げていきます。
<出演・演出> 大阪モード学園 ファッションデザイン学科 フ্যাッション技術学科 スタ일리スト学科 メイク・ネイル学科





サステナブル ファッションに関する 日仏シンポジウム

～フランスの取組から学ぶ～

フランスにおける先進的なファッションロス規制の状況や国民の意識の高さの背景、EUにおけるサステナブル消費の重要性の高まり等について海外有識者・事業者から広く聴取し、日本における今後の対応・方向性について議論します。

日時 令和4年3月10日(木)17:00～19:35
テーマ：「サステナブルファッションの国際的潮流と今後の展開」

シンポジウムの見どころ

- ・日仏におけるサステナブルファッションの有識者やアパレル関係の事業者を交え、情報交換・議論をする場として、本シンポジウムを開催します。

基調講演

- ・ファッションの国・フランスの政府関係者や世界的ラグジュアリーブランドの役員が登場します。最先端のファッション界におけるサステナブルな取組について知ることができます。
- ・日本における最新の取組状況について、消費者庁審議官より講演します。

ラウンドテーブル

- ・日仏様々な立場でファッションに携わる有識者たちが、今後のサステナブルファッションの動向・展望について意見を交わします。
- ・官民・日仏多様な視点での意見を聞ける貴重な機会です。



●オンライン動画配信によるライブ中継を行います(お申込不要)
●日仏同時通訳あり
YouTube: https://youtu.be/zs5_KOGGJJI (日本語)



先進的モデル事業

事業全体イメージ

パートナーシップでエシカル消費の推進活動

生産者・販売者・消費者を繋ぐ

中部エシカリングプロジェクト

事務局（株）新東通信



衣料におけるバリューチェーン全体での課題をエシカル消費啓発で解決する

- ・未利用繊維素材を利活用し、持続可能な衣料に関わるバリューチェーン構築に繋がる人材育成のプログラムを構築
- ・パートナーシップを通じて消費行動と販売活動の変容を図り、ものづくりの現場には障がい者の技を生かし雇用拡大に繋げる

衣類に関わる消費の課題とエシカル消費の啓発により目指すべき姿

【課題】

分断された関係

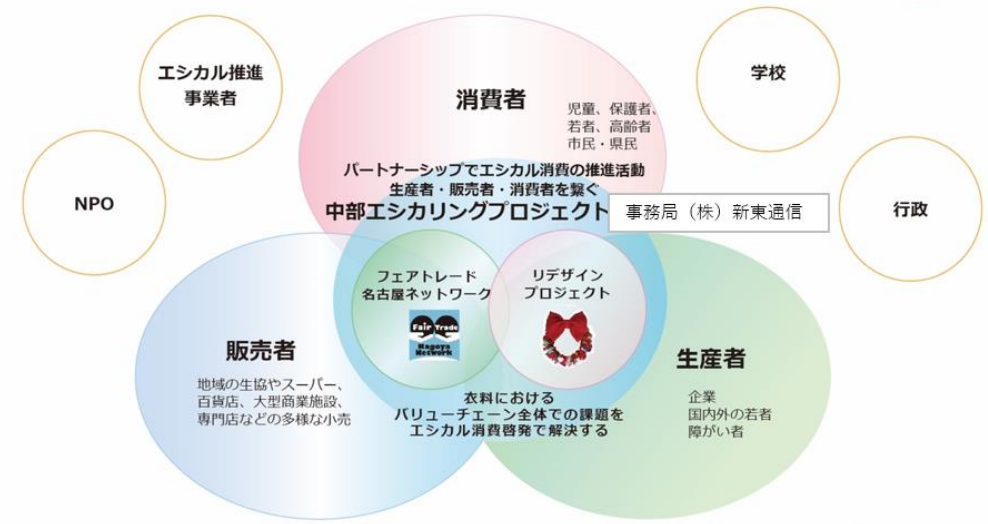
【目指すべき姿】

連携した関係



生産者＝販売者＝消費者を繋げる

「地域に根ざした、誰一人取り残さないエシカル消費」の実践



- 地域行政との繋がりが（地域循環共生）……地域や地域の繊維産業の課題解決が、若者の人材開発や障がい者の働きがいも同時に解決する
- フェアトレードを通じて世界との繋がりを消費者に周知（消費者啓発）……「お買い物を通して、生産者の生活や経済的支援に貢献できるという事」を、小売りや消費者に知ってもらい、共感し、買い物行動が変革する

3. 消費者庁の取組（3）

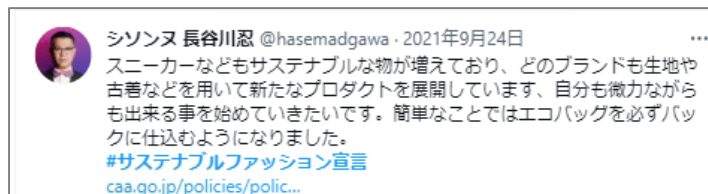
③ 「わたしのサステナブルファッション宣言」リレーの実施

- 令和3年9月15日、井上（前）大臣の宣言からスタート
- SNS（Twitter、Instagram、Facebook）を使って、「わたしの#サステナブルファッション宣言」を発信
 - ・実績201投稿 ※うち事業者144投稿（令和4年10月末現在）

- 次の方を紹介いただく形で宣言リレーを実施



サステナブルファッションサポーターや著名人等も宣言



3. 消費者庁の取組（4）

④サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議の開催

- 環境省、経済産業省、消費者庁の各省庁での取り組み内容を共有し、3省庁で連携すべき取り組み事項の再確認を実施
- 第2回サステナブルファッションの推進に向けた関係省庁連携会議を令和4年6月15日に開催

⑤ジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）への参画

- 事業者により設立されたジャパンサステナブルファッションアライアンス（JSFA）に、パブリックパートナーとして消費者庁も参加。令和3年11月12日にはアライアンス総会にて消費者庁の取組を説明
- パブリックパートナーとして、環境省、経産省、消費者庁の3省庁にて毎月開催される定例会議に継続的に参加（直近、令和4年12月8日開催）

3. 消費者庁の取組（5）

⑥啓発動画の作成

- 消費者全般に広くサステナブルファッションの必要性を知ってもらうために、「地球を変えるサステナブルファッション」動画を公開（令和4年3月）
- ファッションに関連する問題や課題を伝え、ファッションにおけるサステナブルな考え方の必要性を訴求

- 消費者庁サイト掲載の「18のヒント」を紹介
- 桂由美さんとLaraさんのインタビューも掲載

消費者庁ウェブサイト

地球を変えるサステナブルファッション

▶ 導入動画

(TOTAL:40秒)

“18のヒント”

1. 買う時、選ぶ時のヒント
2. 日々のお手入れや洗濯時などのヒント
3. 処分する時のヒント
4. その他のヒント

▶ 本編動画

(TOTAL:12分)

地球を変える
サステナブルファッション



大量消費・大量廃棄
モデルにより
環境負荷が大きい

環境負荷が極めて大きい産業と言われています

Lara(アーティスト)
Instagram 13.4万人フォロワー(2022年10月時点)



みんなでファッションとサステナブルを楽しみましょう！

3. 消費者庁の取組（6）

⑦インフルエンサーを活用した情報発信

- より多くの消費者、特に若年層にサステナブルファッションに関心を持ち、実践する人の輪を広げるため、幅広い分野のインフルエンサーを活用しTwitterにて情報発信
- 令和4年度消費者月間周知投稿とともに、令和4年3月、5月の2期間において延べ18名のインフルエンサーにて「サステナブルファッション習慣のすすめ」ページに関する投稿を実施

- 消費者庁が指定した「18歳から大人」Twitterの投稿にコメントを付けリツイート
- 投稿期間は2週間程度、波及効果を高めるために集中的に投稿

実施期間	インフルエンサー数	発信回数 (サステナブルファッション関連)
令和4年3月24日～3月31日	8名	8回(各インフルエンサー1回)
令和4年5月22日～5月31日	10名	10回(各インフルエンサー1回)

- ・各インフルエンサーが自由にコメント
- ・投稿順やタイミングは各インフルエンサーの任意で実施

(投稿例)



4. 今後の消費者庁の取組予定

① SNSを活用した普及啓発

- 若年層を中心により幅広い層に訴求していくため、Twitterに加え、Instagram公式アカウントを開設し、サステナブルファッションに関する情報を定期的に発信
- 波及効果を高めるため、インフルエンサーを活用した情報発信を継続して実施

② 公式ウェブサイトにおける情報の拡充

- エシカル消費特設サイトにて、個人や事業者の取組事例紹介を拡充